



日本医療機能評価機構 認定病院

甲府共立病院

Kofu-Kyoritsu hospital

Regional Medical Liaison Office
News and magazine

地域連携室だより

地域の皆様が安心して治療が受けられるように

2016年9月号



公益社団法人 山梨勤労者医療協会

当院における腹腔鏡下大腸癌手術 ～研修と今後～

県下初、日本内視鏡外科学会大腸内視鏡技術認定医を取得



(写真右端が杉田医師)



私は平成27年4月から一年間、虎の門病院消化器外科で腹腔鏡下大腸癌手術を勉強させていただきました。その

内容と今後の当院での展望を紹介させていただきます。当院では以前から腹腔鏡下大腸癌手術を行っていましたが、指導者はなく、エキスパートの手術ビデオやハイボリュームセンターでの手術見学を行い、症例を選びつつ試行錯誤しながら行っていました。どうしたら上手に手術が行えるか悩んでいるところに、腹腔鏡下大腸癌手術の第一人者である、虎の門病院消化器外科部長の黒柳洋弥先生と御縁ができ、今回勉強させていただくこととなりました。腹腔鏡手術の長所といえば、傷が小さくて患者さんの回復が早いことが有名です。これも確かにとても素晴らしいことなのですが、外科医にとってのメリットはまた別にあります。それは拡大視効果と教育的効果です。拡大視効果とは高性能カメラにより拡大した鮮明な画像を見ながら手術をおこなえるため、従来の開腹手術では見えにくかった細かい血管や神経まで観察ができ、繊細な手術操作が行えることです。

特に直腸癌手術においては、開腹手術の視野は狭く、術野を確保することさえ難しいこともあります。しかし、腹腔鏡を用いれば視野の確保も十分にでき、骨盤内の視野は極めて良好です。教育的効果としてはモニターの画像を共有できるので、スタッフ間で解剖学的な理解を深めることや、技術指導をおこないやすいなど、医師の教育面でも多大な利点があります。虎の門病院では年間480件もの大腸癌手術を行っており、その99%以上は腹腔鏡手術です。虎の門での腹腔鏡手術は手順が細かく決められており、すべてのスタッフが全く同じ手術をするために、教育的効果が最大限に生かされます。そのおかげで、私も大腸分野における日本内視鏡外科学会技術認定医の資格を取得することができました。技術認定制度とはエキスパートが実際の腹腔鏡手術ビデオを審査し、腹腔鏡手術を指導する力量があると認定する制度です。当院では今年4月から腹腔鏡手術の体制を強化し、腹腔鏡手術を希望する患者さんの要望に最大限こたえられるようにしました。大腸癌は腹腔鏡下手術を基本としています。他の消化管疾患、胆嚢、虫垂、鼠径ヘルニアなども腹腔鏡手術を中心に行っております。スタッフ一同、患者さんの負担が少なく、質の高い手術、治療を目指して一層努力してまいりますのでよろしくお願いいたします。

甲府共立病院 外科 杉田 貴仁

よりよい心不全治療を目指して

平成27年4月から一年間東京女子医大付属病院循環器内科とゆみのハートクリニックへ外部研修を行いました。高齢化に伴い心不全患者さんは増加しています。難治性心不全のため入退院を繰り返して、自宅へ帰れない患者さんと向き合う中で、「心不全患者さんの治療のあり方」「心不全の診断法と治療法」について学びたいと思うようになり今回の研修の動機となりました。

東京女子医科大学付属病院の循環器内科では、心エコー、不整脈、放射線科、病棟、CCUをローテーションし、心エコー、アブレーション、両室ペースメーカーなどのデバイス、心臓MRI、RI、冠動脈CTを勉強し、病棟とCCUでは主治医として患者さんを受け持ちながら研修をしました。大学病院であり、高度に心機能が低下した重症心不全患者さんが大勢おられました。心不全の原因・病態、薬剤の適正投与、増悪因子の検索・是正、手術・デバイスの適応と細かく分析し、日々のカンファレンスでディスカッションし、慎重に診断・治療を行うことを学びました。

ゆみのハートクリニックは、東京女子医大出身の循環器医弓野医師が高田馬場で心不全を中心とした非癌患者さんへの在宅診療を行っているクリニックです。「度重なる入院を予防し、長期入院から在宅へ、という一連の治療管理を目的とした循環器医療施設」として平成24年にクリニックを開設されました。クリニックといってもスタッフは総勢90名、外来診療と24時間365日の在宅訪問診療を行っています。平成26年は、訪問診療患者数350名、緊急往診数621回、自宅看取り数42名(自宅看取り率66%)という素晴らしい訪問診療を展開されています。非癌患者を対象に入院させない在宅医療を展開し、緊急往診の要望にも応じます。私は訪問診療担当医として研修させて頂きましたが、クリニックを出発する時点では訪問先は4人の予定であっ



ゆみのハートクリニック カンファレンスの様子(写真中央が佐宗医師)

たが、最終的に緊急往診で8人まで増えることもありました。その中で、印象的であった症例を経験しました。慢性心不全と慢性腎不全、糖尿病を合併しているインフルエンザ罹患後肺炎の患者さんが、意識障害と低酸素状態に陥りました。今までの私の感覚であれば、躊躇なく救急搬送していたと思うのですが、入院したくないというご本人の希望もあり、緊急で在宅酸素を手配し、訪問看護師と協力し抗生剤注射と補液を連日行うという在宅治療を行いました。結果、ADLが低下することなく肺炎は治癒し、自宅で過ごしたいという患者さんの希望を叶えることができました。在宅で入院同様の治療を行うことにはじめは戸惑いましたが在宅医療でここまでできるのだということを実感しました。また、慢性期に心不全増悪を予防することの重要性を学びました。今後、当院でも心不全患者様が安心して生活できるよう、急性期から慢性期まで、入院治療から在宅治療まで地域の医療機関の皆さまと協力して継続した医療を提供できるように努力をして参りたいと思います。一年間の研修経験を活かし循環器内科医として皆さまのお役に立てるよう頑張っていきたいと思います。

甲府共立病院 循環器内科 佐宗 真由美

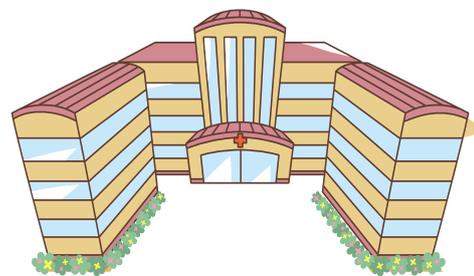


在宅カテコラミン持続点滴の様子



在宅ASVの様子

2016年4月より開設 患者サポートセンター



医療福祉
相談室

+

地域
連携室

+

心理
相談室

医療福祉相談室・地域連携室・心理相談室の3部署を統合し、患者サポートセンターを開設します。従来の業務にベッドコントロール機能を追加し、入退院支援業務を強化します。お気軽にお問い合わせください。

地域連携室より

平日のご紹介は、すべて「地域連携室」に事前にお電話でご連絡をお願いしております。

診療依頼の場合

平日・時間内は、甲府共立診療所で診察を行います。但し、ADLの状況や病態によっては、甲府共立病院で診察を行うことがあります。

入院相談依頼の場合

可能な限り入院ができるようベッドを調整しております。スムーズな入院受け入れのため、以下のような情報をお尋ねしますのでご了承ください。

- ①…患者様の名前
- ②…生年月日
- ③…病名(必要なデータなど)
- ④…ADL状況
- ⑤…認知症の有無

ご紹介をいただき、入院される方の入院までの流れは以下のようになっています。

- ①…地域連携室で、受け付けをします。保険証・紹介状をご提示下さい。
- ②…紹介外来担当医師の診察を受けます。
- ③…患者様と相談の上、入院の具体的な内容を確認します。
- ④…看護師が、入院の説明・必要な処置を行ないます。
- ⑤…病棟のベッドが用意できるまで、お待ち頂く事があります。

先生方のご理解、ご協力に

大変感謝しております。

今後ともよろしく願いたします。

編集・発行 甲府共立病院 地域連携室